

音楽療法士の北村裕美子さんと一緒に、手話を交えながら歌を歌う参加者＝名古屋市市中村区の城西病院で



認知症患者ら笑顔に

歌や楽器演奏などで脳を刺激し、心身を整える「音楽療法」が、認知症の患者にも広がっている。先駆的に取り組む名古屋市の病院などを舞台に、音楽療法士に焦点を当てたドキュメンタリー映画も今夏に公開された。高齢者の笑顔があふれる音楽療法の現場やその効果取材した。
(河野紀子)

音楽療法 広がる効果



ドキュメンタリー映画「認知症と生きる希望の処方箋」(野沢和之監督、写真)は、今夏に全国公開された。北村さんと赤塚さんが、認知症の高齢者らに音楽療法を行う姿や、本人や家族の様子を記録した。赤塚さんは「音楽療法

紹介映画 公開

はまだ知られていない部分がたくさんある。いろんな方にこの映画を見てもらえたら」と話した。中部地方では、名古屋市中村区のシネマスコールで上映中。長野県上田市の上田映劇、浜松市のシネマイーラで上映予定。

「良いですねえ。ノリノリの曲で楽しくなりますね」。9月上旬、名古屋市市中村区の偕行会城西病院。音楽療法士の北村裕美子さん(29)が、集まった約40人に笑顔で語りかけた。ピアノ伴奏をしながら、一緒に「青春時代」を歌った後、「皆さんの青春時代はどうでしたか？」と質問すると、あちこちで笑いも。懐かしの昭和歌謡など8曲を演奏し、参加者は楽しそうに声を張り上げた。合間にストレッチや、曲を当てるイントロクイズもあり、あつという間に1時間のプログラムが終わった。

認知症の診療に力を入れ

独では国家資格

心身整え脳刺激

名古

る同病院では、患者や地域の高齢者が集うカフェを2015年から開催。17年5月からは音楽療法を取り入れ、毎回数十人が集まる。コロナ禍で一時は中断したが、感染状況を踏まえて少しずつ再開。北村さんと赤塚望さん(27)の2人の音楽療法士が担当。

北村さんは「認知症の患者さんに音楽療法を行うことで、脳の活性化や心身の安定につながる。実施する音楽療法士は、一般社団法人日本音楽療法学会などが認定する民間資格で、今年3月末時点で約3700人。ドイツでは国家資格となっており、同学会は日本での国家資格化を目指し